

人権・同和教育研究会（社会教育部）

パネルディスカッション

今回の研究大会は、令和3年に実施した人権についての市民意識調査の結果と考察を報告し、パネルディスカッションを行いました。この会で最も伝えられたことは、各分野のパネラーが自分の身近にある様々な人権課題を問題提起することで、会場の参加者一人ひとりが自分と向き合い、自分にできることを考えてもらうことです。

○四国中央市連合婦人会長

下司 早智子さん

子どもたちの心を育てるために「読み聞かせ」を行い、子どもたちと触れ合うことで子どもたちが抱えている心の問題を感じることを大切にしています。また、子どもたちが感情を出せる居場所を作りたいとの思いを語り、実践を通じた問題提起をしました。

今後、婦人会として同和教育の解決に力を入れて取り組むことを宣言しました。

○男女共同参画推進ネットワーク会議TOMONI 宮崎 恵さん

これまでPTAの役員として人権・同和教育を推進してきたことで、現在では男女共同参画の推進にも取り組んでいます。

これまでの同和教育の積み重ねがあったからこそ様々な人権課題の解決に取り組んでいることに気づき、学習の大切さを問題提起しました。

○四国中央医療福祉総合学院

おおすみ 絃太さん

学生のとくに四国中央市で人権・同和教育をしっかりと学んだことで、様々な差別に気づくようになりました。

知り合いの女性からSNSでの「出会い厨」の悩み相談を受けている事などから、SNSは便利な反面、使用者のモラルが大切で互いに尊重することが重要だと問題提起しました。

○四国中央医療福祉総合学院

ほしかわ 翔太さん

理学療法学科で正しい知識を学び、障がいのある方には何ができなくて何ができるのかを知ることによって必要な支援が変わってくることで、知らないということから偏見や差別が生まれるので、理解することの大切さを問題提起しました。

○四国中央市人権対策協議会長

やまだ 政春さん

問題提起された様々な身近で起こっている人権問題について、自身の経験や体験と、令和2年度に実施した「人権についての市民意識調査」や市が取り組んでいる「心を育てるための5つの目標」などを関連付けて分かりやすく助言をされました。

○四国中央市人権教育協議会長

橋本 裕式さん

オリンピックの開催等により、これまでより人権基準は高まってきたているが、男女平等などそれぞれの人権意識は十分育っているとは言えず、意識を変えていくことが大切だと助言をされました。

意見・感想より

○私は今、杖と装具がないと歩けない状態ですが、健常者からいきなり障がい者の立場になった時に、まだまだ障がい者にやさしい四国中央市になれることがあると気付きました。また反対に、他人のやさしさにも触れることが出来ました。子どもの頃から心の根っこ育ての必要さも感じているので、今後も自ら学び続けていきたいと思っています。

○女性が仕事を続けられる環境の整備、すごく気になりました。私の職場は女性ばかりです。私が妊婦だったころ、上司に「子どもの事（熱や病気）で急に仕事を休むような人は、家にいればいい。（仕事に来る資格なし）」と言われた事があり、今でも許せません。子どもや女性の人権がもっと守られる四国中央市になってほしいです。

○「助けすぎず」・・・手助けしようとする、やり過ぎることもある。程よい気遣い・心遣いが大切なことだと感じました。これは障がいがある方々

だけではなく、子ども達を育てる上でも大切なことだと感じました。それぞれ個々を尊重しながら、程よい気遣い・心遣いをするというのは大変難しくもあるかと思いますが、やり過ぎは押しつけになるのではと、子育てしながら痛感しているところだったので、「助けすぎず」というフレーズを聞き、ハッとしました。

○人権三法ができて何が変わったのか。活かされていない現実があるという言葉がささりました。差別があるから法律を作り、条例を制定、改正することを踏まえ、自分に何ができるのか、事業所として何を考えるのかというのを、改めて考えないといけないと感じました。「知る、学ぶことから実施するところへ進んでいかなければ」と思いました。

○パネラーの方がしつかりと自分の思いを語っている姿を見て、自分はどうかだろうと考えてしまった。思いはあるが他の人に分かってもらえないように話せるだろうか。影響力をもって語り、生きていけるだ

ろうか。今自分に力がない。弱くなっている自分を感じる。今一度職場でも取り組んでいきたいと思う。

○「人の痛みを知る教育が人権・同和教育」という言葉が心に残りました。当事者になることはできなくても、自分の中に同じ痛みを感じたとき、他人の痛みにも思いを馳せる。それを繰り返していくことで、他人の痛みを鋭く感じ取れる人間になりたいと改めて感じました。

○女性に対する差別については、男性に対する固定観念を変えていくことも必要である。女性ももっと働きやすい環境をつくるのはもちろん大切だが、男性が子育てをする、家事をする環境を整えていく観点も必要だと思う。ジェンダーに対する差別・思い込みは男性にもあるのではないか。女性と同じく、男性も「男性はこうあるべき」という思い込みで、つらい思い、生きにくさを感じている人がいるのではないか。男女平等については、女性だけでなく男性の視点か

このパネルディスカッションでは本来、会場からのご質問やご意見もいただく予定としておりましたが、コロナ禍のため断念せざるを得なかったことは残念でなりません。そこで今回の研究大会では、皆様からのご質問やご意見をアンケートにてお願いし、非常に沢山の方からご意見・ご感想を頂きましたので、一部紹介します。



10月11日（月）
しこちゅ〜ホール
大ホール



からも問題を考えていくべきだと思います。男性であるがゆえに弱音を吐けない。頑張らざるを得ないことへのプレッシャーから、男性の自殺者数が減らないのではないか。パネルディスカッションの中で、同和教育についての考え、思いが聞きたかった。（同和教育と自分自身との関わりについて、身元調査について、アンケート結果からどう思うのか）特に若い二人の問題提起者が同和教育学習を積み重ねてきてどう思っているのか聞きたい。

○子育て（家事）を手伝う、参加する。という意識では変わらないと思います。手伝ったり、参加したりするものではないありません。女性が生きやすい世の中になることを願っています。

それぞれの身近な問題提起に、会場全体が共感し、自分自身を振り返りながら我が事として受け止め、考えを深める貴重な機会となりました。